

NPO法人 鹿児島技術士の会 講演会

1. 目的

最新科学知見・技術・産業動向等の講演を通して既存技術の革新を図るとともに、会員の自己研鑽を図る。

2. 事業計画

科学技術や産業をリードしている人材に積極的にアプローチして講演会の講師をお願いしている。講演会を通して、あらゆる産業の課題の解決に向けた技術的助言を行うとともに、支援と交流の輪を広める役割を果たす。

今回は、三井串木野鉱山株式会社 代表取締役社長の五味篤氏を講師に迎える。

3 - 1. 今回の内容

日時：平成 28 年 6 月 11 日(土) 14:00～16:00

場所：鹿児島市勤労者交流センター(よかセンター)

住所：鹿児島市中央町 10 番地キャンセ 7 階

定員：70 名

会費(会場・資料作成等)：一般 1,000 円

NPO 会員 700 円

学生 無料

申込先：NPO 法人 鹿児島技術士の会

鹿児島市田上四丁目 5 番 17 号(株式会社 郷土開発内)

TEL 099-214-5355

FAX 099-213-4791

E-MAIL t.ueno@uenojyo.com

(末尾の申込書にて MAIL または FAX でお申込みください)

(定員に達し次第締め切らせていただきます)

演題：「 鉱山開発の技術史 鉱物資源評価の技術史 - 」

講師： 五味 篤 (ごみ あつし)

三井串木野鉱山株式会社 代表取締役社長

3 - 2 . 講演概要

鉱物資源を開発するためには、先ず地下に存在する鉱床に含まれる鉱石の量(鉱量)と含有率(品位)と形態を把握し、それらに基づいて経済性を評価しなければならない。それらの把握のためにはボーリングや坑道による膨大な探査が必要であり、通常は探査から得られる地質情報の量と質に応じて鉱量と品位の確実性が評価され区分されている。1889年に日本では最初の海外投資として、南米ペルー・アンデス山脈の銀山開発を目的に、日秘鉱業会社が設立され、代表として高橋是清が日本人坑夫を引き連れて渡航した。ところが事前の十分な予察を欠いていたために、品位を過剰に見積もるという致命的な誤りがあり、また投資リスクの評価に失敗をして、撤退を余儀なくされた。それまでの探査は技術者の経験と勘によって地下の状況を推定し、坑道によって確認することが唯一の方法であったが、1900年以降にボーリングによる探査が実用化されて、鉱量と品位の把握はより確実性をもち、近年のコンピュータ計算を駆使した鉱床モデリングにより技術的な進歩を遂げた。

ここでは日秘鉱業会社の投資が失敗に至った技術的な原因を述べ、現在ではどのようにそれらのリスクが回避されているかを述べる。なお、この投資には鹿児島県人の前田正名が主導的な役割を果たし、大久保利和、奈良原繁、牧野伸顕、森岡昌純が株主として参加した。また、薩摩藩英国留学生であった森有礼は高橋是清を書生として育成した。

講演では遥かな未知の国ペルーの銀山開発に夢を託した鹿児島県人をも概観する。

4 . 共催

鹿児島県技術士会

申込書

NPO 法人 鹿児島技術士の会 平成 28 年度講演会 事務担当行

E-MAIL : t.ueno@uenojyo.com

FAX : 099-213-4791

(定員に達し次第締切)

氏名	所属	電話番号	メールアドレス